

香川県生協連

News

2007
Vol.10

香川県生活協同組合連合会／〒760-8504 香川県高松市新北町14-27 ☎087-835-6815



香川県生活協同組合連合会

07年度「生協大会」

「事業を通じて生協の理念を実現しよう」

さる十一月十三日に、生協強化月間の取り組みの一環として恒例の香川県生活協同組合連合会「生協大会」が開催されました。

当日は、会員生協の役員や関係者二〇四名が参加。馬越会長の挨拶からスタートし、来賓祝辞、永年勤続者表彰、また、役員研修の場、会員相互の理解を深める場として記念講演、単協の取り組みが行われました。



県連会長（コープがわ理事長）
馬越 隆良

生協の今の姿、めざす姿

生協は全国で二四一九万人、香川県でも二十三人が参加する日本最大の消費者組織です。事業規模も三兆円を超え、購買をはじめ、共済、医療、福祉、住宅、旅行、葬祭など幅広い分野に及んでいます。生協は、事業を通じて人々の生活に役立つという強い理念を持っており、それを実現するために、それぞれの事業を展開しています。だからこそ、私たちは、生協法改



香川県総務部
納田 和重次長

生協の活動に大きな期待

生協の活動は、昔ながら

正への対応とコンプライアンス経営に徹し、社会に意義のある組織として存在し続けなければなりません。そのためにも、いつも正直にうそのない姿勢でものごとに向き合い取り組んでいくことが必要です。この大会を通じて各生協との交流を図ると共に私たち生協のめざす姿をもう一度再確認し、社会的な役割を果たしていきたいと思います。

らの人と人とのつながりを大切にしたい取り組みが多いと感じます。衣食住が豊かになった今、本当に人々が必要としているのは、心の温かさやつながりです。コミュニティが希薄になり、核家族化が進行し、価値観が多様化していると言われていますが、生協の活動は、そういう問題を解決する大きな力を持っており、大いに期待しています。

私たち大人は、そうした心の豊かさ、地域をみんなの力で良くしていくという気持ちや伝えていかなければいけないと感じています。生協の活動はまさに社会的な問題に正面から取り組まれているので、県としてもできるだけ支援していきたいと考えています。

■記念講演

「鳥取県西部地震を経験して」

今年度、日本生協連の呼びかけで香川県連では、災害対策の検討に取りかかりました。また、日本生協連中四国地連の大規模災害対策連絡会では、県を越えた広域的な支援の連携づくりを進められています。

今回の記念講演では、その連絡会の世話役を務めていらっしゃる鳥取県生協の浅田敏彦氏に、実際に浅田氏が体験された鳥取県西部地震について貴重な記録写真や映像を見せていただきながらお話をうかがいました。



鳥取県生活協同組合
監査・コンプライアンス事務局
浅田敏彦氏

◆当時の状況と対応

■生協施設の被害は？

●被災地が県西部であったので、東部にある本部やセットセンターに被害は無し。西部の2つの支所は、かなり揺れ、書類やパソコンが倒れたがその他設備に異常なし。

■配達は続けられたのか？道路状況は？職員の被災状況は？

●震源地付近は道路の陥没で配送トラックは立ち往生した。配達不可能な班が1つあった。翌日の配達は本部応援を得て二名体制に。また、組合員・職員の被害は、ブロック塀の倒壊、液状化で自宅が傾くなどした。

■行政との応急物資協定への対応は？

●五〇〇mlペットボトルのお茶200本を県庁対策本部に配送という県の要請は、県生協では速やかな対応が困難と判断し大学生協の取引先に要請し県庁に搬入。被災した組合員、地域住民への対応は？

●発生から三日後、県民生活課に問い合わせボランティアについて相談し、土曜日の撤去作業に労組有志が対応。土日は、組合員有志と屋根のブルーシートかけや瓦礫撤去などを実施。

◆教訓と課題

①対策会議の立ち上げ。災害発生時は、精神的に動揺しているため、本部が的確に判断して指示を行なうことが求められる。

②複数の通信手段を持つこと。無線も携帯もつながりにくくなるが、携帯のメールは有効。

◆鳥取県生協の災害対策

最も大切なのは、地震が起きたときの各自の初期行動です。落ち着いて、今自分が何をしなければいけないかを考えていくことが求められます。配達中の人なら、トラックをどの場所に止めるかなど、後々のことも配慮して行動していくことが必要です。また、職員・パート・アルバイトすべての人たちの安否と状況の把握をしていくのが「イの一番」と捉えています。できればその日のうちの日没までにおこなうのが理想です。その後、物資配送や住民への応援などに対応していきます。さらに、生協間で連携をとり、互いに支援を行なっていくことが大切です。被災地生協だけで出来ることは限られています。近隣生協は直ちに支援に入るべきです。中四国でも、そうした連携のマニュアルを作るのが求められます。

地震などの災害は、どこで起きるか分かりません。皆さんも、「いつか起きる」という意識を持って、その時に何をしなければならぬのかを、今から考え、取り組んでいきたいと切に願います。

単協の取り組み報告

各生協との情報交換、そして、互いの理解を深めるために実施している単協の報告。
今回は、「生活協同組合コープかがわ」と「香川大学生生活業同組合」が発表を行いました。それぞれ、参加者に分かりやすく伝えられるように工夫を凝らしたものに。

報告 Part 1

■生活協同組合コープかがわ 「マイバッグ持参運動の 取り組みについて」

報告者

地域組合員代表理事

香川和代さん、丸山春子さん、
小野和子さん、森貴代美さん、
山田佳代子さん、木村昌微子さん、
赤津和恵さん、山本文子さん、
組合員活動
横山泉さん

誰もが出来る
身近なことから始めよう。



近年、産業活動が活発になり、二酸化炭素、メタン、フロンなど、地球の温暖化の要因になっている温室効果ガスが大量に排出されています。

まず。地球温暖化は、すでに異常気象などで私たちの暮らしにも大きな影響を与えているものとなり、環境問題が世界的な課題になっています。そこで、地球温暖化防止活動に取り組んでいるコープかがわでは、組合員の皆さんひとりひとりが、身近な暮らしのなかから出来ることを提案していくことにしました。それが、「マイバッグ持参運動」です。

買い物時におけるレジ袋

は、石油から作られる製品であるうえ、土にかえらないため、ゴミ増加の一因として大きな問題になっています。レジ袋を少しでも削減することは、地球温暖化の防止にも必ず貢献していくものと言えるでしょう。

まず、組合員さんには、レジ袋からマイバッグへ替えてもらうようにアピールし、レジ袋を使う場合は二枚につき三円を代金箱に入れてもらうようにしました。このお金は、コープエコ基金として、美しい環境づくり役に立ててもらっています。また、アンケートをとって、レジ

報告 Part 2

■香川大学生生活協同組合 「食と学び」事業を軸に、 元気な香川大学生を いっぱいつくります

報告者

香川大学経済学部二年
生協理事 生協学生委員長
稲葉未侑さん

食をすることから、

元気を応援。



大学生協の事業は、「入学から卒業までの大学生活をしっかりとサポートする」

「元気な学生をいっぱいつくる」ことです。一方、学生食堂の運営を見てみると、学生

生の食生活の変化やコンビニなどの競合の激化で厳しい経営状況が続いています。

しかし、学生たちの食生活を探ってみると、意外にも、コンビニなどの競争

が原因ではなく、欠食や簡易な食品で代行する食生活そのものに問題があった

のです。「食と学び」を基本にしている大学生協では、こ

うした状況を打破するために、「ミールカード」を導入することに決定しました。

ミールカードは、年間十五万円まで前払いをしてもら

うカードで、一日、一〇〇円まで利用できるシステムです。

学生がバランスのいい食事をできるだけでなく、父母の心配も解消できるものとして好評を得ています。学生

食堂もミールカードの導入で利用者を増やすことができました。

また、先輩や友だちの力をかりた「学び」の取り組みも広がっています。公務

員試験に合格した先輩たちが後輩の受験相談や面接指導を実施。パソコン講

座では、受講生が二年目には講師になって後輩をサポートするようにしています。

教えることで学ぶ。二石二鳥ではなく①受講生はスキルが身につく。②スタッフはアル

バイト代が入る。③教えることで成長できる。④生協利用者アップ。⑤大学の

評価アップ。⑥大学の活性化。⑦父母から見た学生の成長というように二石七鳥の

取り組みを行なっています。



永年勤続者表彰

生協で15年以上勤務した方に贈られる永年勤続表彰が行なわれました。これまでの功労をねぎらうと共に、さらなる意欲とやりがいを感じてもらえるようにと実施されています。二〇〇七年度は二十三名の表彰者があり、当日は十七名が参加しました。

■永年(15年)勤続表彰者

(順不同・敬称略)

●香川県庁消費者生活協同組合

石原 理絵

●生活協同組合コープかがわ

三宅 夏海 兵頭 慶師

神 忠隆 畠木 一紀

藤崎 充宏 朝 正行

岩佐 浩樹 岩田 和士

山中 大輔 吉田 正行

村上 敏則

松田 修治

小川 正義

鎌野 正幸

二宮 信子

小池 啓子

●香川医療生活協同組合

関居 京子 山下 真弓

永尾 力夫 川田 晴美

蓮井 紀子

